

18.2/20

伊勢ごんごん

本日の野菜&果物

ほうれん草	三浦	長嶋さん	里芋	熊本	西山さん
キャベツ	三浦	長嶋さん	ブナシメジ	新潟	片山さん
トマト	三浦	長嶋さん	りんご (ふじ)	長野	小坂さん

りんごは殺虫・殺菌各2回、他は栽培中農薬・化学肥料は使用していません

2月19日(月)は二十四節気の「雨水」にあたります。雨水とは文字通り雨と水のこと、降っていた雪は雨に変わり、冬の間積もっていた雪や張っていた氷が解けて水になる頃という意味です。この頃から草木も芽を出し始め、昔から雨水は農作業の準備を始める目安とされていますが、今年は寒さ厳しき折、春の準備、どうでしょうか…?

今年は野菜の不作で一般市場の野菜の価格も高騰、一部では野菜離れがおき、野菜が売れない…という現象も…but 皆の衆、今更私が言うのも何ですが、野菜の価格の多くは「質」ではなく「量」と「見栄え」で決まるもの。価格が高いのは作り手や関係者が儲けるため…というより、量そのものがないからです。

よこいも小売りに携わっていますが、価格が高騰すると「消費者」のみならず「生産者」「小売店を含む流通業者」も困るのです。量は十分あるのに相場感から出荷しない…という器用なことは農作物の現場では起こりにくいことです。生産者の立場では収穫量が少ないうえに価格が高く売れにくいとなれば収入に響きます。流通・小売りの立場で言えば仕入れ価格が高いと利益率も販売数も下がり、収益に直結します。農作物の不作は消費者・生産者・小売店を含む流通の三角関係全ての人困ります。But 皆の衆、ご批判を覚悟でいえば、多少高くても野菜を買ってください。高くて売れない…となると一番困るのは生産者ではないでしょうか。収穫量も少なく、なおかつ高くて売れない…となると、どうすりゃいいのよこの私…状態です。

理想論かもしれませんが、「多少高くてもこちらの立場を理解して買って下さる。そんな皆さんのためにも頑張って農業を続けるぞ!」と、生産者の皆さんの意欲を高めるのも消費者の皆さんにとっても大事なことで…と考えますが…

今、農業は気候変動の影響を受け今までとは少し様子が違ってきています。毎年・毎年豊作といかなくなってきました。今までは「欲しいものはあって当たり前」の世界でしたが、その前提が少しずつ崩れてきています。えっ、そんなオーバーな…今年だけの事よ…で終わればいいのですが、これから先の食糧事情に大きな不安を抱くよこいでした。

2/27 お届け予定

3/6 お届け予定

小松菜・ブロッコリー・大根・舞茸
じゃが芋・雪下人参・柑橘類

大崎菜・玉ねぎ・キャベツ・エリンギ
ブロッコリー・りんご・お楽しみ